

大阪経済記者クラブ会員各位

大阪商工会議所による医工連携支援

医療従事者の負担軽減に寄与「医療ベッド搬送アシスト装置」を共同開発 —10月から病院で実証実験を開始—

〔お問合せ〕大阪商工会議所 産業部（易木、松山）

T E L : 06-6944-6484

大阪商工会議所（以下、大商）が運営する医工連携プラットフォーム「次世代医療システム産業化フォーラム（以下、MDF）」の支援を活用し、株式会社椿本チェーン（本社：大阪市北区 URL：<https://www.tsubakimoto.jp/> 以下、椿本チェーン）は、国立病院機構大阪医療センター（大阪市中心部、以下、大阪医療センター）と連携し、医療従事者の負担軽減に資する「医療ベッド搬送アシスト装置」のプロトタイプを共同開発。2026年10月より大阪医療センターおよび他の国立病院機構施設において実証実験の開始、2027年度中に販売開始を予定している。

- 昨今、医療従事者の長時間労働や人手不足が深刻な社会課題となっており、働き方改革が進められているが、実際の医療現場では重量約200kgの医療ベッドの移動に複数名を要し、スタッフの負担が大きいことが指摘されている。
- 一方、大商が2003年から運営するMDFでは、全国の医療機関から寄せられる現場ニーズとのマッチングや事業化相談、開発品評価など、医療機器開発のあらゆるステージを対象とした支援事業を四半世紀にわたり行っている。椿本チェーンは、MDFの支援メニューの活用を契機として、大阪医療センターと共同研究契約を締結し、既存の医療ベッドに着脱式で装着可能な搬送アシスト装置のプロトタイプを共同開発した。同装置は、1人でも安全・簡単にベッド搬送でき、病室などの狭小スペースでの取り回し性や、多くのベッドに取り付け可能な汎用性が特徴。現在、大阪医療センターと共同で機能や性能の検証・更なる改良を開始しており、大商も医療機器分野の専門アドバイザーによる事業化相談対応などで側面支援を行っている。
- 今後の予定として、2026年10月より大阪医療センターおよび他の国立病院機構施設において実証実験の開始を予定しているほか、2027年度に販売開始を予定している。本装置の実用化により、医療従事者の心身の負担軽減と業務効率化、看護人材不足の緩和への貢献が期待される。



医療ベッド搬送アシスト装置(プロトタイプ)

(参考) 次世代医療システム産業化フォーラム (MDF) について

大商は、異業種から医療分野への新規参入や新ビジネス創出を目的とした、全国最大規模の医工連携プラットフォーム事業「次世代医療システム産業化フォーラム」を通じて、四半世紀に亘り、医療機器開発のあらゆるステージを対象とした事業を展開。1000件に及ぶ医療現場ニーズと企業とのマッチングや、4000件以上の事業化相談対応などを経て、数多くの医療機器開発プロジェクトの創出や事業化の実績を重ねている。今後、国内外の支援ネットワークを生かした医療機器開発のグローバルエコシステム構築に向けた取組みを加速化する。

URL：<https://www.osaka.cci.or.jp/mdf/>

以上